

水笠遺跡の発掘調査

平成19年度水笠通公園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査成果報告



水笠遺跡は、震災復興土地区画整理事業に先立つ試掘調査によって、平成11年度に発見された遺跡です。長田区水笠通2丁目～3丁目の街区に広がっています。

これまでの発掘調査では、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代後期～鎌倉時代前半にかけての遺構や遺物が発見されています。

今回の調査も水笠通公園建設に伴うもので、平成15年度、平成17年度、平成18年度に続いて、4回目となります。約700㎡について、10月3日から現地調査を行っています。近現代の建物の基礎や、水田を造る際の造成で地面が削られてしまったため、遺構の残りはあまりよくありません。

★今回の調査で発見された主な遺構

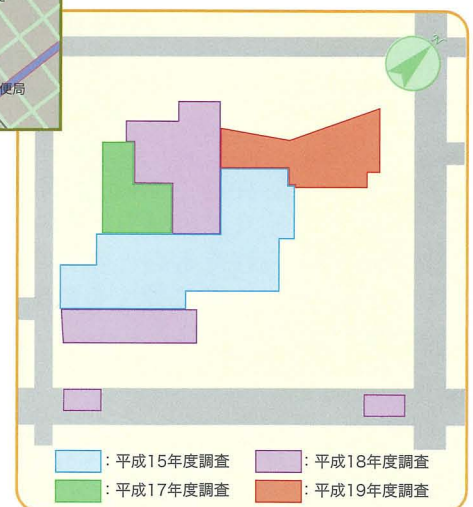
- ・古墳時代後期（6世紀中ごろ～後半、今から約1,450～1,400年前）
 - 縦穴建物 3棟
 - 掘立柱建物 3棟
 - ピット、土坑、溝など
- ・江戸時代～明治時代の水路

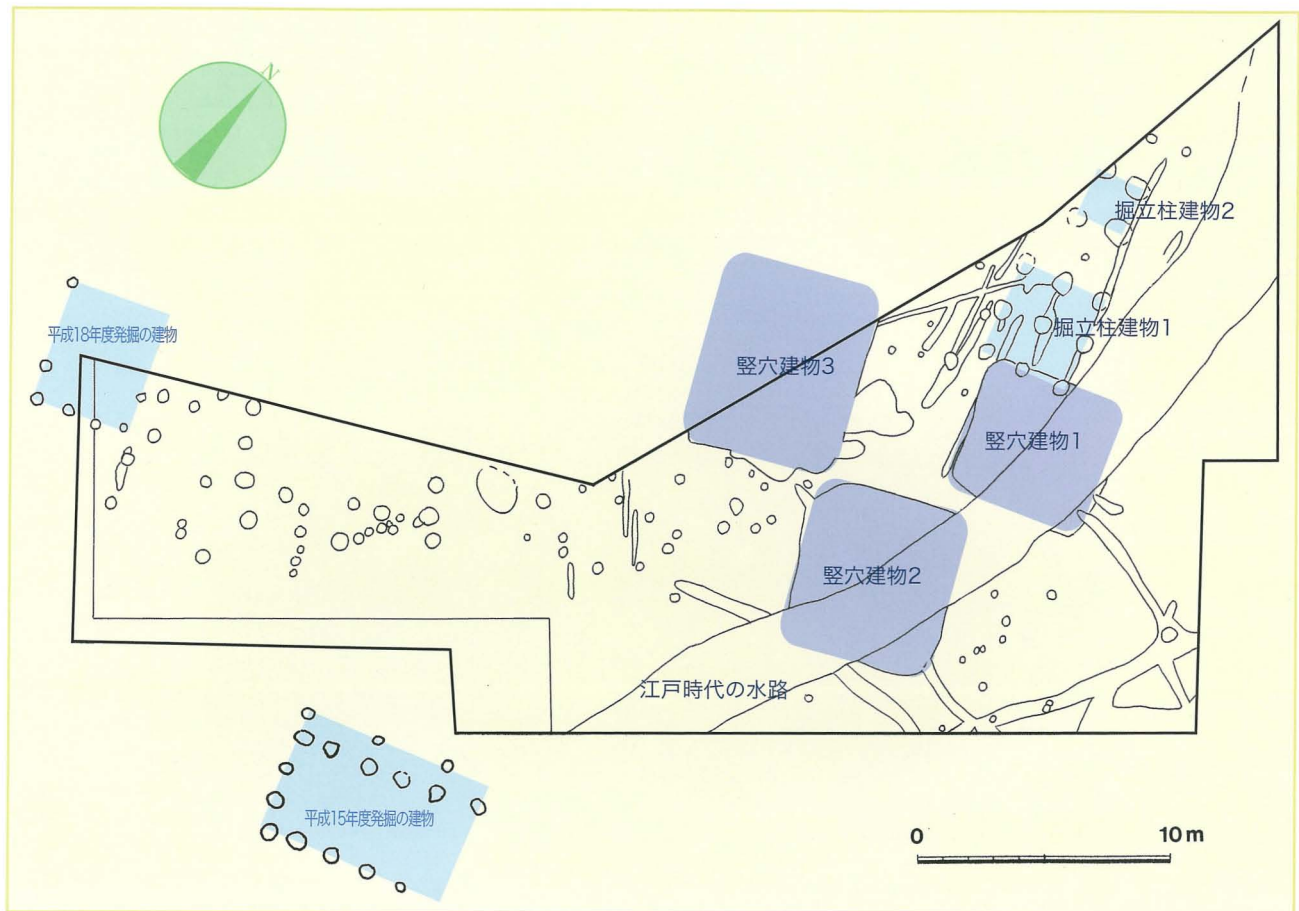
★今回の調査で発見された遺物

土師器・須恵器



現在の水笠通公園





発掘調査の範囲と遺構の配置図

竪穴建物 1

一辺約5.5mの方形の住居。地面が削られてしまったため、深さは約20cmです。江戸時代～明治時代の流路により住居の半分が壊れて残っていません。住居の中には須恵器の坏蓋やはそう、土師器の甕が残っています。

竪穴建物 2

現在調査中のため、深さはわかりません。一辺約6mの方形の住居。この住居も江戸時代～明治時代の流路により壊されています。

竪穴建物 3

北西側が調査区の外になるため、正確な大きさはわかりません。一辺約6mの方形の住居と考えられます。この住居も地面が削られており、約20cmの深さです。

掘立柱建物 1

東西2間(3.4m)、南北2間(3.8m)の総柱の建物で、柱穴は直径70～80cmの円形です。柱材は抜き取られたものと考えられます。竪穴建物1が埋まった後に建てられています。倉庫のようなものかも知れません。

掘立柱建物 2

柱穴の一部が見つかっただけで建物の規模は不明ですが、柱穴は直径80～90cmと大型で、かなり立派な建物と考えられます。



竪穴建物1から出てきた須恵器



建物跡の発掘調査風景

今回の調査に際しては、都市計画総局・建設局のご協力を得ています。